

ファンダ情報

コムズ投信7周年イベント

東京、大阪、名古屋で開催/後編

2009年1月に始動した「コムズ30ファンド」。運用を手掛けるコムズ投信は今年4月から5月にかけて、東京、大阪、名古屋の3カ所で運用報告会を兼ねた7周年記念イベントを開催した。後編(前編は6月15日掲載)では、コムズ投信が語る投資先3社の選好ポイントと、会社側が語る企業文化や理念に負けない「強み」を紹介する。

コムズ投信の目① カカコム(2371):独自の着眼点で 唯一無二の新サービスを創出

「価格.com」「食べログ」など知名度、利用者数ともに圧倒的なサービスを開発・運営する同社。長きにわたって求められるサービスを生み出す「着眼点」はもちろんだが、新サービスを連発するといった、どちらかといえば派手な印象の強いインターネット業界の中において、既存サービスを常に進化させ続けるという地味な作業もいとわぬ企業文化も魅力的だと感じている。

ユーザー本位の姿勢を徹底するため、例えば「食べログ」では2年前すべてのサービスを無料とし、まずは多くの方に使ってもらいたくことを目指した。社内的にも売り上げや利益に関する目標値は設けなかった。もうけを優先させてしまうとユーザー本位を損ねない可能性があるためだ。今後同様のやり方で新たなサービスを開発していく。

コムズ投信の目② 信越化学(4063):秀逸なリーダージョ ンで実現する高占率

信越化学工業 広報部長 足立幸仁氏
収益に対する執着心が非常に強いことが同社の特徴の1つ。塩化ビニールなどの汎用品から半導体用エーエなどの先端テクノロジーまであらゆる「素材」を手掛けるが、例えば塩化ビニールと半導体シリコンについては世界トップと、手掛けるすべての領域で高い商品占有率を誇る。結果、競合と比べて高水準の利益率を実現し、パル崩壊以降はIT不況をも乗り越えて13期連続で増益を維持。リーマン・ショックでいったん減益に落ちても、すぐに挽回(ばんかい)して、15年3月期までは3期連続増益を達成した。

収益に執着するものの中期経営計画は策定して

いない。業績が市況の影響を大きく受けるため先を見通すことはわずかに、ミスリードするくらいなら出さない方が望ましいと考えるためだが、そもそも策定には大量の人と時間も費やさなければならず、代わりは即収益に結びつく作業に従事させた方がよいとの経営判断に基づくものでもある。

コムズ投信の目③ 東京エレクトロ(8035):ビジネスモ デルは変わってもブレない価値観

東京エレクトロ 1R室長 笹川謙氏
当社は電子機器商社として創業したが、現在は売上の9割を半導体製造装置が占め、生産から販売、技術サポートまでを手掛ける。04年開始に発明された半導体は驚くべきことに性能が18カ月置きに倍になるといって、とてつもないスピードで技術革新が繰り返されている。当社の創業当時はIC黎明(れいめい)期であり、IC先進国の米国企業のみが半導体製造装置を作っていた。しかしながらアフターケアには対応せず、これらを導入した多くの日本企業が故障などトラブルに悩まされていた。そんな状況を目的とした当社は、顧客企業の要望に応えるかたちで半導体に関するノウハウを蓄積。自然と現在のビジネスモデルに降りていった。このような背景もあり、イノベーションが激しい業界の中において、顧客企業と深い信頼関係を構築できていることが当社最大の強み。

知らないと怖い

不動産市場の裏

第9回

「空室率」の低下が、既婚の若年層の結婚を促している。一方で、アメリカでは先行きの不透明な経済状況が、米国の不動産市場にどのような影響を及ぼしているのか。今回は、米国の不動産市場の現状と今後の見通しについて、米国の不動産市場の専門家から話を聞いた。

「空室率」の低下が、既婚の若年層の結婚を促している。一方で、アメリカでは先行きの不透明な経済状況が、米国の不動産市場にどのような影響を及ぼしているのか。今回は、米国の不動産市場の専門家から話を聞いた。

「空室率」の低下が、既婚の若年層の結婚を促している。一方で、アメリカでは先行きの不透明な経済状況が、米国の不動産市場にどのような影響を及ぼしているのか。今回は、米国の不動産市場の専門家から話を聞いた。

「空室率」の低下が、既婚の若年層の結婚を促している。一方で、アメリカでは先行きの不透明な経済状況が、米国の不動産市場にどのような影響を及ぼしているのか。今回は、米国の不動産市場の専門家から話を聞いた。

「空室率」の低下が、既婚の若年層の結婚を促している。一方で、アメリカでは先行きの不透明な経済状況が、米国の不動産市場にどのような影響を及ぼしているのか。今回は、米国の不動産市場の専門家から話を聞いた。

「空室率」の低下が、既婚の若年層の結婚を促している。一方で、アメリカでは先行きの不透明な経済状況が、米国の不動産市場にどのような影響を及ぼしているのか。今回は、米国の不動産市場の専門家から話を聞いた。

日米REIT比較、実際に割安なのは「米」

迫り来る?円安局面は戦略転換のチャンス

米REITは、日本REITに比べて、配当利回りが高く、株価も割安である。円安が進むと、米REITの魅力をさらに高める。日本REITは、配当利回りが低く、株価も割高である。円安が進むと、日本REITの魅力をさらに高める。米REITは、日本REITに比べて、配当利回りが高く、株価も割安である。円安が進むと、米REITの魅力をさらに高める。日本REITは、配当利回りが低く、株価も割高である。円安が進むと、日本REITの魅力をさらに高める。

カカコム 取締役 上村はじめ氏

当社の事業は創業者が自ら家電販売店を回って集めたパソコンの価格情報をまとめたウェブサイトで始まる。販売店からは猛反発されたが、口コミでユーザーが集まりその数が増えるにつれて、協力が得られるようになった。こうしてユーザー本位の観点から「価格.com」が立ち上がり、その後には第2の柱として「食べログ」が立ち上がった。これらサービスに共通するのは「生活者の不便や課題を解決すること」。結果として流行に左右されないビジネスモデルを実現することとなった。

信越化学 広報部長 足立幸仁氏

収益に対する執着心が非常に強いことが同社の特徴の1つ。塩化ビニールなどの汎用品から半導体用エーエなどの先端テクノロジーまであらゆる「素材」を手掛けるが、例えば塩化ビニールと半導体シリコンについては世界トップと、手掛けるすべての領域で高い商品占有率を誇る。結果、競合と比べて高水準の利益率を実現し、パル崩壊以降はIT不況をも乗り越えて13期連続で増益を維持。リーマン・ショックでいったん減益に落ちても、すぐに挽回(ばんかい)して、15年3月期までは3期連続増益を達成した。

東京エレクトロ 1R室長 笹川謙氏

当社は電子機器商社として創業したが、現在は売上の9割を半導体製造装置が占め、生産から販売、技術サポートまでを手掛ける。04年開始に発明された半導体は驚くべきことに性能が18カ月置きに倍になるといって、とてつもないスピードで技術革新が繰り返されている。当社の創業当時はIC黎明(れいめい)期であり、IC先進国の米国企業のみが半導体製造装置を作っていた。しかしながらアフターケアには対応せず、これらを導入した多くの日本企業が故障などトラブルに悩まされていた。そんな状況を目的とした当社は、顧客企業の要望に応えるかたちで半導体に関するノウハウを蓄積。自然と現在のビジネスモデルに降りていった。このような背景もあり、イノベーションが激しい業界の中において、顧客企業と深い信頼関係を構築できていることが当社最大の強み。

注目の銘柄

Table with 2 columns: 銘柄, 株価. Lists companies like LINE, セラフ, コメダホールディングス, etc.

新規上場スケジュール

Table with columns: 上場日, 銘柄(コード), 市場, 1株利益, 主幹事, 公開株式数, 想定株価, 仮募集価格, 倍率, フックポイント期間, 公開価格, 初値.

東証39業種から見る有望銘柄

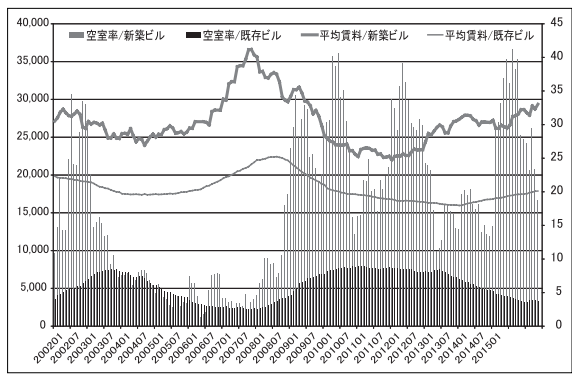
グローバル展開が成長の要

サントリーBF、カルビー

食品業の時価総額トップは「飲料」で、中でも「清涼飲料」が最も伸びている。サントリーBF、カルビーは、海外展開を加速させている。サントリーBFは、海外展開を加速させている。カルビーは、海外展開を加速させている。

注目の銘柄

Table with 2 columns: 銘柄, 株価. Lists companies like LINE, セラフ, コメダホールディングス, etc.



投資家と企業の橋渡し

個人投資家向けIRセミナー

日本証券新聞は全国で開催しています

内容は、上場企業による会社説明と株式評論家による講演。企業トップから事業戦略などを直接聞けることが魅力。投資対象を探す手段として個人投資家の皆さんに好評をいただいています。



開催地は順次拡大中!



「上場企業の皆様へ」日本証券新聞では、個人投資家向けIRセミナーを開催を募集しています。個人投資家の皆さんに理解を深めてもらうコミュニケーションの場としてご利用ください。

お問い合わせは 日本証券新聞IRサーチャ 電話 03-6661-9414 http://seminar.nsjournal.jp/